当院における平衡機能検査の現状

○井ノ上　健司,鱸　美行,藤木　由美子,森　一恵,三谷　伸明,竹内　由紀子,寺村　一裕
(淀川キリスト教病院 臨床検査課),西浦　弘志(淀川キリスト教病院 耳鼻咽喉科)

【はじめに】

高機能病院化に伴い、当院では平衡機能検査を導入し現在に至っている。今回各種の統計をとり、主訴と診断の関連性について調査したのでここに報告する。

【対象】

1992年11月から2003年12月までに、主にめまいを主訴に当院検査室にて平衡機能検査を行った800例。

【方法】

①体平衡検査・・・重心動揺計検査・足踏み検査
②眼振検査・・・・注視眼振検査・頭位眼振検査・頭位変換眼振検査
③迷路刺激検査・・温度眼振検査(Caloric Test)
④視刺激検査・・・視運動性眼振検査（ＯＫＮ）・追跡眼球運動検査（ＥＴＴ）
⑤内科的検査・・・自律神経検査（Schellong Test)
⑥心理学的検査・・ＣＭＩ健康調査表

以上の検査を行い、②～④はフレンツェル眼鏡、もしくは電気眼振図計（ＥＮＧ）で、観察・記録した。

【結果】

主訴は回転性めまい(vertigo)が439例と最も多く、続いて浮動性めまい(dizziness)が334例、耳鳴り10例、眼前暗黒感７例、その他10例であった。

診断の内訳はメニエール病・良性発作性頭位めまい症等の末梢性疾患が36%、椎骨脳底動脈循環不全・脊髄小脳変性症等の中枢性疾患が14%、その他自律神経失調症・神経症等が12%、残り38%は診断がつかず「めまい症」とした。

主訴を疾患で分類すると、vertigoでは末梢性42%、中枢性10%、その他９%、めまい症39%、dizzinessでは末梢性30%、中枢性20%、その他11%、めまい症39%であった。

（なお診断には問診・聴力検査・耳科的レンドゲン・頭部ＣＴ・ＭＲＩの結果も考慮されている。）

【まとめ】

主訴はvertigoとdizzinessで殆どを占め、診断では共に末梢性疾患が多かった。また診断のつかなかった「めまい症」も共に約4割に達した。

連絡先（06）6322－2250　内線2234